

製品名: Raf-1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21114**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:73kD;Observed MW:73kD

抗原情報

遺伝子名	RAF1
別名	RAF1;RAF;RAF proto-oncogene serine/threonine-protein kinase;Proto-oncogene c-RAF;cRaf;Raf-1
遺伝子 ID	5894.0
SwissProt ID	P04049
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

背景

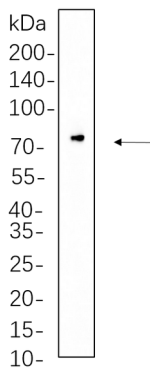
細胞局在: 膜、細胞質、核。この遺伝子は、ウイルス性 raf 遺伝子 (v-raf) の細胞ホモログです。コードされているタンパク質は

MAPキナーゼキナーゼキナーゼ (MAP3K) であり、膜結合型 GTPase である Ras ファミリーの下流で機能し、これらに直接結合します。活性化されると、細胞内の RAF1 タンパク質はリン酸化され、二重特異性タンパク質キナーゼである MEK1 および MEK2 を活性化します。MEK1 および MEK2 は、さらにリン酸化され、セリン / スレオニン特異的タンパク質キナーゼである ERK1 および ERK2 を活性化します。活性化 ERK は細胞生理学における多面的エフェクターであり、細胞分裂周期、アポトーシス、細胞分化、細胞遊走に関わる遺伝子発現の制御において重要な役割を果たします。この遺伝子の変異は、ヌーナン症候群 5 および LEOPARD 症候群 2 と関連しています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



C6 細胞ライセートを 4~20% SDS-PAGE で分離し、膜を Raf-1 ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でブロットニングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。